

マンチェスター市非核都市宣言 30 周年記念行事への参加について（報告）

報告者：松尾 緑

1 日 程

平成 22 年 10 月 31 日（日）～11 月 7 日（日）（8 日間）

2 出張者

日本非核宣言自治体協議会会長（長崎市長）	田上 富久
被爆者（非核特使）	山脇 佳朗氏
日本非核宣言自治体協議会事務局員（長崎市平和推進課）	松尾 緑

この他、長崎市訪問団として吉原孝長崎市議会議長、黒川智夫原爆資料館館長が参加。
※被爆者、事務局員旅費を協議会が負担

3 概要

① 1 月 4 日（木）10:00～11:30

長崎市・日本非核宣言自治体協議会共催による国民歴史博物館「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展～被爆から 65 年」オープニングセレモニーへの出席

英国における原爆写真展への関心は高く、マーク・ハケット マンチェスター市長をはじめ、ジョージ・リーガン 英国・アイルランド非核宣言自治体協議会会長のほか、平和団体関係者や一般市民などおよそ 100 名が参列した。田上市長は、冒頭の挨拶において、世界に非核都市宣言を広める契機となったマンチェスター市の取り組みに、あらためて敬意と感謝を伝えるとともに、一人でも多くの方に原爆写真展へ足を運んでもらい、ともに「核兵器のない世界」の実現を目指し行動してもらいたいと述べた。

※展示内容 広島・長崎の原爆被爆から復興までの様子、核兵器廃絶へ向けた NGO の活動などを紹介した写真資料 (48 枚)



セレモニー後、広島、長崎の被爆 65 年を記念するとともに、マンチェスター市が非核都市を宣言するにあたり、当時、市議会議員として議案を提出すると共に、その後、英国・アイルランド非核宣言自治体協議会会長として多大な貢献をした故ビル・リスビー氏 (2009 年逝去) の記念碑が披露された。

また、英国政府公認ガイドの案内のもと、平和と社会正義の遊歩道（人権・平和に関連する像や彫刻が配置されている）を見学した。この遊歩道の企画・立案にも市内の平和活動団体が深く係わっており、官民をあげて平和のまちづくりに取り組んでいることが強く感じられた。



リンカーン像



② 11月4日(木) 12:00～13:00

マンチェスター市長招待による歓迎昼食会への出席、芳名録記帳、記念品の交換



③ 11月4日(木) 13:00～14:00

「英国・アイルランド非核宣言自治体協議会運営委員会」での田上市長挨拶

日本非核宣言自治体協議会の会長として、協議会の実情や取り組みについて説明。市民と自治体が協力するとともに、自治体同士が連携して、政府を動かす原動力となるよう力を尽くすことが必要であると訴えた。また、「ミニミニ原爆展」の開催について協力を依頼するなど、同じ非核宣言都市として国境を越えた協力を求めた。



④ 11月4日(木) 19:00～21:30

マンチェスター市非核都市宣言 30 周年を祝う記念式典 (レセプション) に出席

アイルランドや英国の国会議員をはじめ英国・アイルランド非核宣言自治体協議会の加盟都市、平和市長会議の役員都市など約 50 名が出席した交流の式典において、田上市長は、米ソの対立で東西の緊張が高まる中、敢然として「非核都市宣言」を行ったマンチェスター市の決断に改めて敬意を表するとともに、今回の訪問をきっかけとして、日英の非核宣言都市の交流が深まるよう協力を求めた。



参列した国会議員からは、「英国・アイルランド非核宣言自治体協議会の活動を高く評価するとともに、非核活動における広島と長崎の意義と役割を深く認識し、『核兵器のない世界』の実現のために日英の自治体同士の連携に期待する」、「原爆被害の証人である山脇氏の隣に立っていることに特別な感慨を感じるとともに、身が引き締まる思いである。今後、核兵器廃絶に向け、更に力を尽くして行きたい」などと挨拶がなされた。

⑤ 11月5日(金) 13:00~15:00
非核特使、山脇氏による被爆体験講話

マンチェスター市の中学生を対象とする被爆体験講話が行われ学生との交流を深めた。体験講話では地元中学校7校から集まった約120名が熱心に聴講した。講話の冒頭で、現地の高校生が原爆をテーマにした音楽劇を上演するなど、被爆者と被爆地の市長を迎える学校側の熱意もひとときわ高く、講話後の質疑応答では、多くの率直な質問がなされた。



4 所感

- ① 「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展」をはじめ、一連の行事に関し、「英国・アイルランド非核自治体協議会」の事務局（事務局長 ショーン・モリス）と緊密に連絡をとりながら準備を行ったので、大きなトラブルもなく順調に日程を終えることができた。モリス氏の協力に心から感謝したい。
- ② 「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展」では、「**人体に対する原爆の影響**」の**写真**が表に出されることなく、次のような注意とともに、パネルの裏側（コーナー）に張られていた。放射線特有の被害を伝えるのに不可欠である写真を、このような形で展示されたことを残念に思った。



注意：
このコーナーには、実際の被爆者の様子を撮影した衝撃的な写真が展示されております。見学を希望しない方は、ここから先に立ち入らないようお願いいたします。

- ③ 反核キャンペーン（CND）・マンチェスター支部のメンバーは、非核都市宣言30周年記念の各行事に参加するとともに、山脇氏と中高生の交流（被爆者体験講話）についてもコーディネートを行なった。更には、記念碑や銅像を街中に配した「平和と社会の遊歩道」創設に参画するなど、英国の反核運動を牽引するCNDと自治体（マンチェスター市）の連携がとても参考になった。